

聲明書

労働者並に無産市民諸君!!

正月を目前にして、私達日清紡績名古屋工場従業員は、不本意ながら会社に戦いの宣言をなすに至つたのであります。

私達は何故かゝる好ましからざる態度を採るに至つたか、と申しますと「役付きと同じ様に忘年宴會を開催したい」と会社に諒解を求めたのに對し、「会社は役付きの忘年宴會は許すが平職工の忘年宴會は許さぬ」と許可をしながらつたのであります。

私達は「自分のお金で自分達が忘年宴會をやるのが何故悪い」と内心憤りを感したのであります。かくく子も地頭には勝てない」と言ふ古言に従つて、忘年宴會を会社の言ふ通り中止したのであります。然るに突如会社は忘年宴會の世話人になつたのがイケナイと言ふ理由で、十二月十五日朝九時から夜七時まで不法にも三名の職工を会社の一室に監禁し退職を強制したのであります。

茲に至つて私達は、此の理不盡極まる会社の態度を社會に訴へ、併せて会社の猛省を促すべく奮然蹶起した次第であります。

労働者市民諸君!!

「忘年宴會すら許さず」とその上「職工を暴力的に一室に監禁する」が如き会社の態度は如何に私達が野蠻極まる封建的搾取を加へられてゐるかといふことの生きた證據であります。

今や資本家の飽くなき野蠻的搾取と横暴は利然たる全無産大衆の聲となり、その輿論は將に國民的輿論に迄高まりつゝあるものであります。温情主義を口實に、職工に人間以下の生活を強いる日清紡績こそ、その憎むべき典型的代表的資本家と言はざるを得ません。かゝる資本家の存在は私達無産大衆の生活を根底からおびやかすものであり、かゝる吸血魔は、無産大衆の生活権確立の意味からしても斷乎として鐵槌を喰らはす必要があると思ふのであります。

私達は、従らざるに事を好むものでもなく、言はんや、ストライキと言ふ様な手段に出ることは極力さげたいと心から願つてゐるのであります。然し乍ら牙をむいて、獲ひかゝる狂狼に對して私達は生命を守るためにも、また狂狼を退治して社會の不安を除くためにも戦はざるを得ないのであります。

労働者無産市民諸君!

以上が私達の真意であり且つ今度の問題の真相であります。私達は、全國評議會の應援と労働者市民諸君の支持同情を得て、此の不當不正なる悪資本家と、彈丸盡き、矢折れるまで戦ふ決心であります。幸ひに一般の支持同情は日に／＼高まり、姉妹工場たる東京、岡崎(日清レーション)等々の兄弟も共同應援の準備を進めつつある有様で、この一事を見ても私達の戦いが、如何に正しい戦いであるかを語らずして明白であります。労働者市民諸君の御批判と御同情を賜りたく、ここに聲明書を發表した次第であります。

昭和九年十二月十九日

名古屋市南區豊田町道徳 日清紡績社宅一〇六號

日清紡績名古屋工場従業員

中部紡織染工労働者組合爭議應援委員會

事務所

名古屋市中區西川端町八ノ十

日本労働組合
全國評議會